

序 文

北星学園大学経済学部は、1965年に経済学科の単1学科からなる学部として設置され、1987年にコンピュータリゼーションの新たな局面（第二次情報革命）に対処して情報処理に関する知識と技能を兼備した人材を育成する為に経営情報学科が併置され、本年2学科ならなる学部として開設30周年を迎えることになった。この「北星学園大学経済学部設立記念論文集」は1995年9月～10月に催された諸業事（市民公開講座、記念式典、記念学術講演、祝賀会、経済学部歴史資料展示会）の一環として出版されたものである。

経済学部開設頭初、北大名誉教授渡辺侃先生、松田武雄先生（初代経済学部長）、高倉新一郎先生、早稲田大学名誉教授久保田明光先生、酒枝義旗先生、青山学院大学名誉教授榊原巖先生といった諸先生を中核として経済学部の教育・研究体制の礎が確立したわけである。

爾来、教育面についてみれば、大学の教育理念であるキリスト教主義に基づく人間性、国際化時代に適応しうる国際性、地域社会に貢献しうる社会性の育成を尊重しつつ、経済学部独自の決定による学科課程に基き教育を実施してきたが、このほど両学科において、新しい時代の教育に対応しうる学科課程の再編を終え新年度から実施することになっている。

研究面においてみれば、経済学部のスタッフは個々の研究

において、開設当時の錚錚たる諸先生の御業績に恥ない業績をあげるために日々研鑽を続けているところであるが、他方、経済学部のスタッフが切磋琢磨する機会をもつことが重要であるという認識から、北星学園大学経済学会を設置し各自業績を発表しあったり、所謂「共同研究」（北海道における公私混同経済の実体把握）を継続してきたところである。しかしながら、今日の国際化、情報化なかんづく学際化の時代に対応し、社会科学としての「経済学」に関する研究成果の水準の一層の高揚を測るとともに、研究の効率化を測るために、すでに二世紀以上以前に A. Smith が「諸国民の富」の中で自分自身の体験として紹介している分業による協業（研）のための組織・機関（経済研究所）を設置することが切望されるところである。

ともあれ、われわれは、社会の進歩に貢献するために日夜研究に励み、その成果を社会にとうていかなければならないと考えている。開設 30 周年という節目にあたり、本論集もそのような目的にそって刊行されたものである。

1996 年 3 月 15 日

北星学園大学経済学部長 小野寺 万寿郎